

1 第5学年 「割合」

2 本授業の概要

本授業では定価の20%引きの弁当の代金はいくらになるのか、値引きの値段を求めたり、代金は定価の何%になるのかを求めたりして、それぞれの店の代金を比べることをねらいとした。

その際に図を用い、20%がどこにあたるのか、定価に対する代金の割合はいくつになるのかということを用い、説明できるように考えた。



3 実践の振り返り

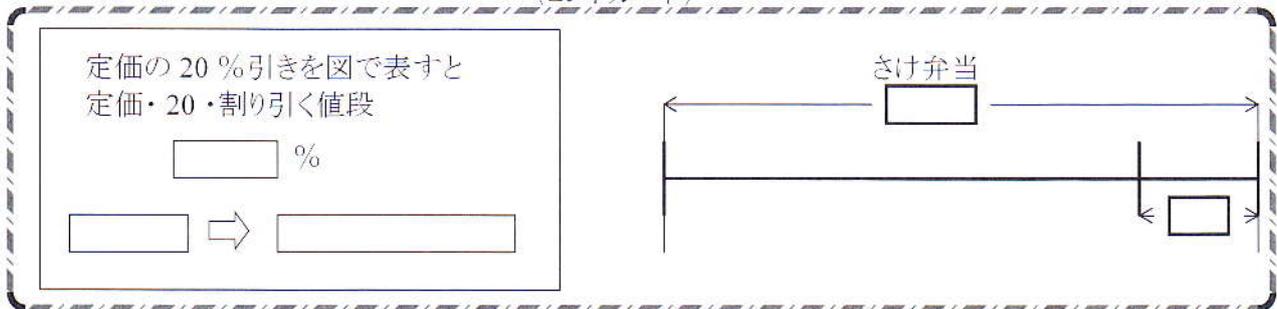
(1) 身近な事象を教材に生かす

児童が興味・関心をもって学習活動に取り組めるよう、何割引きや何%引きなど普段の生活の中で目にすることがあるものを教材に取り入れた。実際には、定価の同じ弁当を特売日に割引の仕方が違う弁当屋ではどちらが安く買うことができるかという設定にした。

(2) 授業展開について

問題を読み取るのに時間がかかる児童や問題は理解しても解決の糸口がつかめない児童など様々であり、見通しの立たない児童にはヒントカードを渡して、説明していった。個別の支援に多くの時間を費やしたため、集団検討の時間が少なくなってしまった。

〈ヒントカード〉



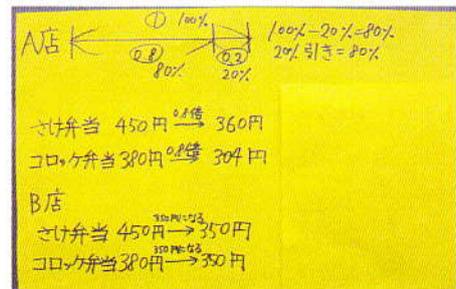
4 指導講評 講師: 小島 宏 先生

○指導案について

- ・単元の目標、評価規準はもう少し精査する。
- ・本単元の基礎基本に4年生の整数倍の内容を入れる。
- ・レディネステストで誤答が多い部分はその原因と対応をする。

○展開について

- ・問題文のさけ弁当とコロケ弁当を○で囲むだけでも焦点化できる。
- ・問題としてははじめはさけ弁当とコロケ弁当を1個ずつでもよかったのではないかい。
- ・おなじつまずきをしている児童を前に集め、一緒に説明し、理解できた児童から席に戻らせる。
- ・早くできた児童には隣同士、またはグループ等で説明しあうことも考えられた。
- ・全体での話し合いは典型的な例(分解式、結合式)を出して、説明させる。
- ・児童のいろいろな解き方を下表のようにしてまとめていくとわかりやすい。



	さけ弁当(1個)	コロケ弁当(1個)
B店	350 円	350 円
A店	$450 \times 0.2 = 90$	$380 \times 0.2 = 72$
	$450 - 90 = 360$ 360 円	$380 - 72 = 304$ 304 円
	$450 \times (1 - 0.2) = 360$ 360 円	$380 \times (1 - 0.2) = 304$ 304 円

まず、1個の代金を求め、それぞれを2倍するとわかりやすい。

- ・説明の図は図や式だけにし、言葉は省く。見えにくい場合は拡大して全員が見えるようにする。